

## 「祈ってくださるキリスト」

ルカによる福音書 22章31節～34節

説 教 本庄侑子牧師

「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたと一緒に行く覚悟です。」(33節) ペテロには並々ならぬ覚悟がありました。主イエスと出会って人生がすっかり変えられたからです。岩という意味の「ペテロ」という名前をいただきました。誇らしくて、自分は岩のような決意についていく。そう思っていました。

主が祈ってくださったのは、まさにその時でした。「しかし、わたしはあなたの信仰がなくなるように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(32節)

主はご存知でした。ペテロが1日もしないうちに裏切ることになることを。主が捕らえられた時、ペテロは逃げました。このお方と歩んでいたら自分は輝けると思っていました。それなのに、どうしてこんなことに。深い失望と混乱を抱えながら、自分の身に害が及ばないところに退き、成り行きを見ることしかできなくなりました。

「あなたもあの人の仲間ではないのか。」そう言われた時、とっさに3回も否定しました。その時、鶏の音が聞こえました。主イエスの予告通りとなりました。主は、ペテロ自身よりもペテロのことをご存知でした。そして全てに先立って、この時、祈ってくださったのです。

私たちがいただいている主イエスへの信仰とは何でしょうか。また、主イエスからいただく召命とは何でしょうか。もしそれらが、自分の信じようとする心、自分たちの決心や覚悟によって成り立つのであれば、私たちの誰がそれらを守り、全うすることなどできるでしょう。

主イエスはおっしゃいました。「しかし、わたしはあなたの信仰がなくなるようにあなたのために祈った。」もとの言葉では「わたしは」が最初に来て強調されています。ペテロの宣言の前に、主イエスの方が宣言していただきました。ペテロの全てを見つめながら覚悟していただきました。

「サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。」(31節)神は私たちが誘惑に会い、試練にあうことをお許しになります。しかも、それらに負けることまでもお許しになるのです。誘惑や試練、失敗によってもなお残るもの、神の覚悟と決心をこそ受け取らせようとしてくださるからです。

ペテロが3度も主との関わりを否定した時、

「主は振り向いてペテロを見つめられ」(61節) ました。「振り向いて」は、「あなたが立ち直ったときには」の「立ち直る」と同じ言葉です。この時、主が見つめられたのは、覚悟を決めて宣言したペテロではありませんでした。罪に敗れて泣くペテロでもありませんでした。そのような自分をなお受け入れ、死んで復活してくださった復活の主との出会いを経て立ち直っていく姿、そして召しに応えて、兄弟たちを力づける姿でした。

私たちの信仰、召命を成り立たせているのは、主の十字架と復活から溢れ出た神の愛と赦し、そこで成し遂げられた神の誓約、覚悟と決心です。ペテロの裏切りは、ペテロの覚悟が崩れ去った出来事となりました。しかし、信仰や召しが無くなったことにはならなかったのです。

主は最初にペテロの元を訪れた時、こうお語りになりました。「恐れることはない。今からあなたは人間をとる漁師になるのだ。」(5章10節)そして、この言葉を成就させるために、主はペテロがどうやっても払いきれない罪の責任までもご自身の身体で負い抜いて復活してくださいました。そんな主の決意と祈りがペテロを追いかけ、真実に立ち直らせ、召しに應える覚悟を真実なものとしてくださいました。

先ほど、主任牧師就任式で私が言い表した覚悟も、その主イエスの決意と祈りによります。これまで、主の十字架と復活によって、なお残る主の召しの声聞いて、真実に立ち直らされてきました。そして、その日々を支えたのは教会の祈りでした。もう自分など滅んでしまえばいいと思っても、教会に行くと、いつも私のための祈りが捧げられていました。あの時、ペテロを振り向いて見つめられた、主の憐れみ深いまなざしの中に、みなさんを通して置いてきていただきました。

今、私は大阪教会主任牧師としてここに立っています。しかし、私を立たせているのは、自分の力でも覚悟でもありません。十字架と復活から溢れ出る限りない神の愛と赦し、私を用いんとせん主の決意と覚悟、そして信仰がなくなるようにという主イエスの祈りであり、皆さんの祈りです。先ほど、私も皆さんも言い表した誓約の言葉を、主が全うさせてくださいますように。

(記 本庄侑子)